

決議案第1号「米国の核性能実験に抗議する決議案」に、私一人が反対する理由をご説明します。

反対の理由は3つ。

その第一は、核性能実験と核実験が全く別物だからです。

地球上に危険な放射能をまき散らす核実験には私も反対です。

しかし、核性能実験とはいったいどんな実験なのか？

核実験とはどう違うのか？

皆様はご存知でしょうか。

本市議会はアメリカの核性能実験に、これまで何度も抗議を行っています。

決議案を読むと、「核性能実験の強行は極めて遺憾」と、まるでこの世の終わりのような憤慨ぶりですが、本当にそんなに危険なものなのでしょうか？

私は昨年、核性能実験を行ったアメリカ・ニューメキシコ州のサンディア研究所を訪れて、現地を視察してきました。

核実験というと砂漠の真ん中で大爆発を起こして、ドカンときのご雲が浮かぶイメージがありますが、実際はまったく異なります。

研究所はアルバカーキという空港のそばの、小さな建物の中にあります。

米国政府・エネルギー省の出資を受けた民間企業が運営していて、エネルギー開発や地球環境、ロボット技術など、幅広い分野の基礎研究を行っています。

その研究の一つに、ZマシンというX線加速装置の実験が含まれ、若い研究員さんに実際にZマシンの中心部まで案内していただきました。

Zマシンとは、網の目のような電線が何万本も張り巡らされた屋内スタジオの中心に、わずか数グラム、米粒ほどのプルトニウムを置き、高圧の電気を一気に流して燃焼させるという仕組みです。

燃焼の破壊力は、せいぜいオニギリ大の鉛の塊の一部が傷つく程度で、きわめて小規模な屋内実験です。

普通の核爆弾は何十キロものプルトニウムを使いますが、こちらの実験で使うのは数グラム、5セントコインくらいの大きさです。

確かにプルトニウムを燃焼させるという点で、「核」の性能を調べる実験には違いはないのかもしれませんが。

しかし、サンディア研究所のヴィジョンは地球誕生の神秘に迫る研究が目的であって、プルトニウムだけでなく、地球上のあらゆる物質や元素を実験対象にしているとの説明でした。

この程度の研究施設は、わが国でも国立大学の研究所などあちこちで見かけるもので、新型の核兵器の開発などとはまったく関係のないものであることが直感的にわかります。

「核性能実験」と通信社の報道をうのみにして、どんな実験かも知らずに一方的に抗

議文を送りつけるのは科学的な手法とは言えません。

昨年、私がアメリカのサンディア研究所を訪れるに際して共産党の宮川幹事長をお誘いしたところ、残念ながらお断りを受けました。

しかし「百聞は一見に如かず」ということわざがあるとおりです。

サンディア研究所が小さな実験を行うたびに、毎回熱心に決議案を提出される共産党の皆様は、ぜひ一度現地をご覧になることをお勧めします。

ちなみに博識なる上田市長は、すでにサンディアを視察されたと伺っています。

そして反対の理由の二つ目は、決議案に実効性がないということです。

研究所の責任者のKeith Matzen博士にお話を伺ったところ、札幌市議会が過去に何度も抗議文を送っていることはまったくご存じないし、そもそも

「研究所にはそれらしきペーパーは届いていない」

ということでした。

「核実験ではないし、なんの法律にも条約にも違反していないのに、なぜ抗議されるのか理解できない」

「広島、長崎が抗議するならまだわかるが、札幌は何の関係があるのか？」

と反対に聞かれ、私は答えることができませんでした。

これは私の推測ですが、日本語で送る抗議文は意味が分からずに、アメリカのどこかでエアメールが止まっているのだと思います。

せつかく決議案を苦労してまとめて送っても、先方に読んでもらうどころか、届いていないのでは意味がありません。

少なくとも現地に抗議の意思が届いていないことは私が確認してきましたので、単なる自己満足ではなく、もし本気でオバマ大統領に抗議の意思を伝えたいのならば、せめて最低限、決議を英語に訳して送るべきだと思います。

なんらかの返事が返ってくるはずです。

さらに三つめの反対の理由は、決議案があまりに国際情勢の現実とかけ離れていることです。

核兵器の廃絶が人類共通の願いであることは確かです。

しかし核兵器はすでに多くの国に拡散していて、実際には廃絶どころか、テロリストの手に渡って悪用されることすら懸念されている状態です。

さらにわが国近隣では、中国、北朝鮮、ロシアが核兵器を保有しており、憲法9条で非武装のわが国にとって、安全保障上の深刻な問題となっています。

こと北朝鮮は、今週の23日、日本人拉致などの人権侵害行為が国連で非難されたことに逆切れして、わが国を名指して

「無慈悲な懲罰の鉄槌を下す」

「日本を丸ごと焦土化して、水葬する」

などと、恐ろしいヘイトスピーチを行っています。

一方でお隣の韓国はわが国固有の領土である島根県竹島で、今週24日に駆逐艦や護衛艦を参加させた大規模な軍事演習を行いました。  
まさに日本国民に対する卑劣な威嚇行為（ヘイトアクション）に他なりません。

札幌市民の平和と安全を守るために、むしろ抗議すべきはこれらの不穏な近隣諸国の動向であって、いまわが国と同盟関係にあるアメリカを、闇雲にあげつらってみても、かえって平和が遠ざかるばかりではないでしょうか。

議員の皆様、賢明なる判断をお願いして、私の討論を終わります。